

ロックコープス 清掃奉仕イベント開催



↑清掃奉仕イベントに参加したみなさん

7月24日、広野町内で開催されたロックコープス（復興支援と社会貢献を目的とした米国発のボランティア活動）による清掃奉仕イベントが開催されました。

このイベントは、今年6月にも町内で開催され、今回も40人を超える参加者がありました。遠藤町長は参加者に挨拶を述べ、参加者とともにニツ沼総合公園内の清掃活動をしたほか、防災緑地に移動して町の状況などを説明しました。

第2期災害公営住宅（大平地区内）の 安全祈願祭・起工式を実施



↑第2期災害公営住宅イメージ図（大平地区）

7月21日、折木大平地区内に整備を進める第2期災害公営住宅の安全祈願祭・起工式が執り行われました。

下浅見川広長地区に昨年10月に完成した第1期災害公営住宅に続いて建設されるもので、平屋の集合住宅1棟、平屋の戸建て住宅8棟が木造により建設されます。

完成は平成29年3月を予定しています。

町と議会が合同で要請活動を実施



↑要請書を読み上げる遠藤町長

7月21日、広野町と広野町議会は、広野町役場において東京電力ホールディングス㈱に対して要請活動を実施しました。要請内容として、①原子力災害に関する情報の共有について、②福島第一原子力発電所の廃炉に向けた安全対策について、③地域の再生と振興についての3項目を挙げ、福島第1原子力発電所の廃炉に関して十分な安全対策と住民への説明責任を果たし、廃炉作業の選択肢に「石棺」方式は採用せず、燃料取り出しの技術を確立し、当初の計画通り県外において適切に処分することなどを強く要請しました。

社会を明るくする運動を実施



↑啓発運動に参加したみなさん

7月15日、午前7時から広野駅前、午前8時からひろのてらす前において、社会を明るくする運動を実施しました。保護司の吉田重光さんをはじめ、更生保護女性会14人が啓発用物品（チラシ・うちわ等）をふたば未来学園高校の生徒や通勤通学者に配布しました。

サントリー福島未来ミュージック プログラム報告会を開催



↑ニューヨーク演奏に向け練習に励む吹奏楽部

7月20日、ふたば未来学園高校で「サントリー福島未来ミュージックプログラム途中経過報告会」が開催されました。

このプログラムは、米国大使館と(公財)米日カウンシルジャパンとの官民パートナーシップが主体となり、「サントリー東北サンさんプロジェクト」の協賛により実施されているものです。これに、ふたば未来学園高校の吹奏楽部が参加し、部員の2年生8人が米国ニューヨークへ行き、ニューヨーク・フィルハーモニー管弦楽団とのワークショップを通じて「ふる里」を想った曲づくりを完成させることを目標としています。

花いっぱい運動を実施



↑あっという間に綺麗な花壇ができました

7月2日、ニツ沼総合公園で花いっぱい運動を実施し、集まった町民約150人がサルビアとマリーゴールドの苗を園内の花壇に植えました。

作業はおおむね1時間程度でしたが、花壇は鮮やかに彩られ、参加者は気持ちの良い汗を流していました。

作業終了後には、参加者へ自宅用の苗が配布されました。

婦人会が広野駅の美化活動を実施



↑駅構内の草むしりなどに精を出す婦人会の皆さん

6月25日、広野町婦人会が広野駅の環境美化活動に取り組みました。

当初は町内各種団体による一斉の環境美化活動を実施する予定でしたが、雨天の予報だったため中止となり、広野町婦人会が単独で取り組んだものです。

参加者は、プランターに様々な花を植えて飾り付けるとともに、駅構内の草むしりなどを行いました。

住友大阪セメント株式会社を 表敬訪問



↑関根社長（写真右）に感謝の意を述べる遠藤町長

遠藤町長は、7月19日、いわき市四倉鬼越応急仮設住宅の用地を被災地域支援活動の一環として、無償で提供いただいている住友大阪セメント株式会社（本社・東京都千代田区）を表敬訪問し、関根福一社長にこれまでの支援に対する感謝の意を述べました。これに対し関根社長は、「広野町の状況はよく理解している。当社も原発事故により栃木工場（佐野市）の製品が売れなくなるなどの風評被害を受けたが、現在は払拭に向けた対策を講じている。災害廃棄物の処分先としてセメント業界は大きな役割を担っていることから、今後とも福島復興に寄与していきたい。」と応えました。